様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 ３０ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｈ０５７１２

研究課題名（和文）アジアの政教関係と新しい公共宗教論構築の地域比較研究

研究課題名（英文）Comparative Study of Politico-Religious Relations and Public Religions in Asia

研究代表者
櫻井　義秀（Sakurai, Yoshihide）

北海道大学・文学研究院・教授

研究者番号：５０１９６１３５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,500,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、ホセ・カサノヴァが提唱した公共宗教論を再検討する舞台としてアジアの諸地域（一部スラブ地域を含む）を設定し、公共領域に参画し、公共性の観念までも構築する現代宗教のあり方を調査した。
　具体的には、日本、中国、台湾、モンゴルの東アジア、タイとインド、パキスタン、バングラデシュの東南・南アジア、ウクライナとポーランドを対象に公共領域で政治、社会福祉的活動を行う宗教団体と、当該国家における政教関係を分析した。中国、モンゴル、ウクライナとポーランドは社会主義国家による宗教統制の緩和以降に着目して、宗教復興とポスト・ソーシャリズム固有の政教関係についても論じている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　政教分離を厳格に理解する日本では、宗教が公共領域に進出することに対して警戒感がつよい。このような宗教理解は戦前の宗教統制に即したものであり、旧社会主義国家や現代中国などに共通した宗教に対する規制の発想と言える。しかしながら、これらごく少数の国を除けば、宗教が政治や教育・福祉に積極的に関与し、当該社会の規範意識や共同体の形成に大きく関わっている。この状況を「公共宗教」という概念により理解することで現代宗教に対する認識がよりシャープになるのではないかと思われる。
　本研究はホセ・カサノヴァが提示した西欧キリスト教をモデルとする公共宗教論をアジア地域に適用することで理論を深化させることができた。

研究成果の概要（英文）：This team reconsidered the concept of “public religions” which was proposed by Jose Casanova, by extending his theoretical premise of Christianity in the West to the implicit and diversified religions in the East and a part of Slavic areas. In those areas conventional religions and transnational religions participated in public sphere through political and social engagement.
Specifically, we conducted our research on religions and the relations to their regimes in Japan, China, Taiwan, and Mongol in East Asia, Thailand, India, Pakistan, and Bangladesh in Southeast and South Asia, and Poland and Ukraine in peripheral Slavic regions. We found that several political religions in those countries and the legacy of post-socialist countries, which extended religious involvement in public sphere through bargaining with the state and its regulatory enforcers.

研究分野：宗教社会学

キーワード：公共宗教　世俗化　ポスト社会主義　東アジア　政教関係

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

（1）公共宗教論のアジア的コンテキスト　宗教と公共性、宗教の社会参加をめぐる議論が、1980年代以降世俗化論に代わる宗教論として欧米で論議され、日本でも触発されて研究がなされてきた。特に、ホセ・カサノヴァの公共宗教論と宗教の脱私事化論は、現在でも宗教研究のみならず、日本の社会科学全般に広く参照されている。ただし、カサノヴァ自身が旧著の公共宗教論ではカトリックのモデルが強すぎたこと、グローバルな視点から再編する必要性を主張している。西欧-日本の比較を軸に理論構築を進めてきた社会科学の視点は、アジアの多様な文化と社会制度のあり方から相対化されるべきであり、本研究はアジアからの理論構築を目指した。

（2）アジアの比較宗教社会学　櫻井は、アジアにおけるソーシャル・キャピタルのあり方と宗教による社会貢献を関連づける研究を概要に記載した科学研究費の助成を受けながら進めてきた。一連の比較研究から明らかになったことは、アジア諸国では①宗教人口の構成はもとより、政教関係－世俗主義が強い国家（厳格な政教分離型や宗教統制型）、公認宗教型（上座仏教、イスラーム）、宗教的影響力が強い国家（カトリック、イスラーム）と多様であり、②福祉レジームと宗教団体の社会事業には関連が見られるものの、宗教文化や歴史的経緯の影響が強く、③社会主義下の宗教政策とその遺制が無視し得ないことである。

本調査研究がなそうとしたことは、当該地域の宗教や人々にとっての歴史的起点を植民地主義と近代化の経験から問い直し、20 世紀の壮大な社会実験（社会主義による世俗化と「圧縮された近代化 compressed modernity」、漸次的民主化の経験）が人間社会の宗教文化にどのような影響を与えたのかである。

２．研究の目的

本研究は、基盤 B（海外）(2010-12 年度)「ポストグローバル時代の東アジアにおける階層分化と宗教文化再編」と基盤 B（海外）(2013-15 年度)「東アジアにおける宗教多元化と宗教政策の比較社会学的研究」の成果を踏まえ、従来の西欧/キリスト教型公共宗教論を相対化するべく、アジア発信の新たな公共宗教論の構築を目指す。具体的に、東アジア・東南アジア・南アジア、およびロシア・モンゴルにおいて、(1) 歴史的な政教関係の構築、(2)グローバル化によるトランスナショナルな宗教運動の影響、(3)急激な近現代化と社会問題が生み出す人々の宗教文化への渇望の 3 点に着目した事例研究を重ね、現代宗教が公共圏に参画する形態を比較社会学的に分析しようとした。

３．研究の方法

本研究の調査対象地域は、東アジア（日本、韓国、中国・香港、台湾）・東南アジア（タイ、ベトナム）・南アジア（インド・バングラデシュ）、およびロシア・モンゴルを当初予定したが、研究分担者・連携研究者の都合でロシアからウクライナとポーランドに調査地域を変更した。その他の地域は研究計画通りである。研究方法としては、①分担研究者と北海道大学の研究協力者が調査地域の大学･研究機関・協力研究者と共同で調査し、②アジアの政教関係の変化と新たな公共宗教（政治的社会参加と社会福祉型参加）について、国際ワークショップの開催や国際学会等におけるセッションの開催を通じて、理論的検討を行う体制を組んだ。平成 28 年度と 29 年度は、個別のフィールドワークに基づいた調査研究と、海外の研究協力者との共同討議を行う国際ワークショップの開催を軸に研究を進め、30 年度にフォローアップの調査と最終的な国際ワークショップ、学会発表、書籍化の準備を行った。

最終報告書の作成に時間を要したため、研究期間を 1 年延長し、その間、最終成果報告書を書籍として刊行することができた。

４．研究成果

本研究では、研究成果を書籍、**櫻井義秀編,2020,『アジアの公共宗教論－ポスト社会主義国家の政教関係』北海道大学出版会、A5 判、全 348 頁**として刊行することができた。

以下では、分担研究者の個別の研究成果を要約しておきたい。

（1）川田進は「現代中国の政教関係と宗教と和諧政策の動向」をフォローし、習近平政権の政教関係の特徴を「宗教の中国化」の視点から論じた後、「宗教と和諧」政策の流れを鄧小平の時期にさかのぼって考察する論考を公表している。次いで、川田は、宗教に対する行政的管理と、それに沿って公共空間への居場所を確保しようとする諸宗教の動向を調査した。習近平政権は、チベットや新疆ウィグル自治区のチベット仏教やイスラームに対して抑圧を強め、仏教と道教が信者から多額の喜捨を得て富裕化（商業化）する事態に対して「宗教事務条例（二〇一八年改定）」により統制を加えている。

（2）佐藤千歳は、「権威主義体制下の中国におけるキリスト教徒の生存戦略と政教関係」を浙江

省温州の事例から調査し、個々の教会が、地方行政官と微妙な関係を維持しながら、時に情（便宜や人間関係）で時に理（法的権利の主張）で教会の維持存続を図っている様子を明らかにした。宗教統制下において、人々のスピリチュアルな欲求が増す一方、通うべき教会が少なく、牧師や神父が不足する現状では、さらなる精神的希求が人々の間に芽生える可能性を指摘した。

（3）**藤野陽平**は、「戦後台湾の民主化運動における長老教会」の役割を明らかにするべく、日本台湾青年社の『台湾青年』と日本基督教団が刊行した『台湾教会通信』を資料として分析した。一九七一年の「国是声明」、一九七五年の「我々の呼びかけ」、一九七七年の「人権宣言」によって長老教会は政府に対して旗幟を鮮明にした結果、集会活動への介入を招き、叛乱容疑者隠匿罪などの罪状で長期間牧師が収監されたが、藤野は個別事件を微視的に追うことで、キリスト教会が抵抗運動の先鞭を付け、台湾における市民社会の創造という公共空間に参与したことを明らかにした。

（4）**滝沢克彦は**、「モンゴルにおける政教関係と公共宗教」をテーマに調査し、社会主義体制時代からポスト社会主義の時代を通して、モンゴルにおける世俗化や公私の分離の独自性を指摘し、公共宗教論に潜む諸前提がアジアでは成立しがたいこと、公共空間における宗教の位置づけに対してもモンゴル人特有の認識があることを指摘する論考を公表した。モンゴル人民党の社会主義政権によって仏教寺院が破壊され、僧侶が粛清される大弾圧があった後、公式には無宗教国家となったが、ボン教やシャーマニズムの民間祭祀は家庭などの私的領域で密かに営まれた。一九九〇年にモンゴル人民党が一党独裁から社会民主主義政党に衣替えし、民主化後の政権は手のひらを返したように仏教をモンゴルの伝統文化として尊重した。経済の自由化は外資の導入を招き、同時に、キリスト教の宣教団体や海外支援組織が流入し、首都ウランバートルには福音主義教会が林立する現在の状況となったことを明らかにしている。

（5）**櫻井義秀**は、「戦後日本における二つの宗教右派運動」を一九六〇年代の学生運動時代に淵源を持つ生長の家の学生運動家による日本の保守政治運動と、韓国発祥のキリスト教系新宗教である統一教会の政治団体である国際勝共連合を比較対照しながら、宗教右派による政権への食い込み方と政権側の取り込み方を研究した。知見としては、第一に、ハイポリティクス/高度経済成長の一九六〇－八〇年代からローポリティクス/定常経済の九〇年代以降のそれぞれの三〇年間を比較しながら、宗教右派が政治家のみならず一般市民の賛同者を引きつける政治的イシューに変遷があったこと。第二に、二次にわたる安倍政権の時代に日本は右傾化したと言われるが、右傾化言説とは別に、右派的宗教・政治団体の実像を可能な限りの資料を用いて叙述した。公共宗教の特徴の一つは、民族や国民の共通性や文化的立脚点に加えて、自集団中心の歴史認識を用いることによってナショナリズムになりうることである。グローバル化した現代社会においてその種の右派的言説が公共空間においてどのような位置を占めるのかという点にも言及した。

（6）**矢野秀武**は、「イスラーム表象から見たタイ仏教と公共宗教」をテーマに、仏教徒の知識人たちによるムスリム理解を比較宗教・宗教学の書籍やタイの諸宗教を紹介した社会科教科書から明らかにしたうえで、タイの公共宗教たる上座仏教（人口の約 95%）がタイ人口の約四%でしかない宗教的少数派をどう処遇するかという観点から、公共宗教の権力性を描き出そうとした。知見として、タイにおけるイスラームの教義的研究や南部国境県居住のムスリムたちの人類学的研究が進められてきたのは、たかだかこの三〇年ほどのことであり、ムスリム住民と警察や行政との葛藤・緊張が増し、紛争の問題解決に迫られたからであったこと。キリスト教の宣教は近代に始まるが、国民国家としてのタイが登場する以前から存在したムスリムや、コミュニティにおけるムスリムと仏教徒の共存に関して全く語られないことを通して、公共宗教としての上座仏教の権力性や、それと結びつく王権・国家の問題を論じる論考を公表した。

（7）**外川昌彦**は、「南アジアから公共宗教論を問い直す」ことをテーマとし、理論的考察として、公共宗教論の政治的中立性という前提を再検討し、政教分離という世俗化や市民社会の成立においても、主権国家が定める公共宗教と諸宗教との差異は残されたままであることを確認した。特に、植民地期のインドにおいてインド独立のナショナリズムが国民国家という単位ではなく、宗派＝民族を単位とするコミュナリズムから始まったが、宗派・民族・カーストという習俗や職域の差異を乗り越えるために世俗主義が導入された後もコミュナリズムは残り、インドとパキスタンの分離や、インド人民党によるヒンドゥー主義としてインドの公共空間を特徴付けた。そのうえで、南アジア特有の公共空間はイスラーム主義運動の高まりや南アジア系移民によって世界に拡張しており、一元的で一方向的な世俗化と反動としての宗教復興という経路とは異なる展開をしていることが示される論考を公表した。

（8）**高橋沙奈美**は、「ポスト社会主義圏における公共宗教」をテーマに、ウクライナにおける正教会の公共宗教としての側面を叙述しながら、マイダン革命以降の教会の新しい動向を展望する調査研究を行った。ウクライナにはウクライナ正教会モスクワ総主教座とウクライナ正教会キエフ総主教座があり、前者は歴史的にロシアの影響下で勢力を拡大し、後者の二倍強の勢力を

誇る。しかし、マイダン革命時、ウクライナの独立系教会とキエフ総主教座はデモに参加した人々を支援し、現政権を支持して従軍司祭の派遣や、東部対テロ作戦地域における支援物資の輸送、避難民の支援など行っていたという。ポスト社会主義の時代、体制や伝統の庇護下にあった正教会は、政権と市民、およびコンスタンティノープル総主教座との関係などに配慮しながら、支持を拡大していく社会貢献活動に進む傾向にあることを調査により明らかにした。

（9）加藤久子は「公共宗教の光と影」をテーマにポーランドにおけるカトリック教会と公教育の関連を問う調査研究を行った。ポーランドの時代画期（第二共和国、第二次世界大戦直後、スターリン期と以降の社会主義時代、体制転換後）ごとに政権とカトリック教会の関係を分析し、ポーランドでは他の社会主義国家と比べて宗教抑圧は軽く、公教育におけるカトリックの儀礼や教育は排除されたものの、カトリックの人生儀礼を家族や地域から奪うことはできず、司祭たちの教区活動は容認されていたことを明らかにした。ポスト社会主義の時代、宗教教育の再導入や道徳規範の強化などが進み、プロテスタントや正教を信仰する家族の子弟や外国人に配慮した倫理教育などで不十分な点が目立つという問題が生じている。共産党によって奪われた公共空間における存在価値を回復したカトリック教会であるが、移民の増加に伴う多元化社会に適応的な寛容の精神を発揮できるかどうかを課題として指摘する論考を公表した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計13件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　7件）

１．著者名 塚田穂高	４．巻 －
２．論文標題 戦後日本の新宗教運動における平和運動	５．発行年 2017年
３．雑誌名 2017近代東亞宗教的變遷與發展國際學術研討會 論文集	６．最初と最後の頁 135-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Masahiko Togawa	４．巻 158
２．論文標題 The Spirit of Liberation War and the 1972 Constitution: Redefining Secularism	５．発行年 2018年
３．雑誌名 The Journal of Social Studies	６．最初と最後の頁 61-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 川田進	４．巻 －
２．論文標題 中国共産党の宗教政策とグローバル化	５．発行年 2018年
３．雑誌名 国際研究フォーラム東アジアのグローバル化と宗教文化	６．最初と最後の頁 7 - 23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 矢野秀武	４．巻 36
２．論文標題 上座仏教圏における宗教と国家－宗教関連制度に関する基礎情報－	５．発行年 2018年
３．雑誌名 駒澤大学－文化	６．最初と最後の頁 (1)-(26)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 加藤久子	4．巻 40
2．論文標題 現代史における宗教研究の可能性と課題――ポーランド史の視点から	5．発行年 2018年
3．雑誌名 東欧史研究	6．最初と最後の頁 165 - 170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 櫻井義秀	4．巻 24
2．論文標題 特集論文　現代東アジアの宗教をどうとらえるか	5．発行年 2016年
3．雑誌名 日中社会学研究	6．最初と最後の頁 30-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 SanamiTakahashi	4．巻 26(2)
2．論文標題 Reexamining the Myth of the Last Tsar’s Family as a Religious Resource	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Russian Studies	6．最初と最後の頁 399-413
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.22414/rusins.2016.26.2.399	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 SanamiTakahashi	4．巻 2016C
2．論文標題 Ксения Блаженная в Ленинграде: Пост-сталинская религиозная политика и народное православие в Советской России （レニングラードの福者クセーニヤ―ソヴィエト・ロシアにおけるスターリン後の宗教実践と民衆正教）	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Социология и общество: социальное неравенство и социальная справедливость	6．最初と最後の頁 5037-5042
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 外川昌彦	4．巻 4
2．論文標題 Fakir Lalon Sani: Upanibesh-Uttar Bangla Anchaler Dharmiya Cintadhara （ベンガル語、「フォキル・ラロン・シャハ―ポストコロニアル・ベンガルにおける宗教思想」）	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Bhabnagar: International Journal of Bengal Studies	6．最初と最後の頁 451-466
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 外川昌彦	4．巻 92
2．論文標題 英領インドにおける岡倉天心のブッダガヤ訪問について―スワーミー・ヴィヴェーカーナンダとラビンドラナート・タゴールとの交流から	5．発行年 2016年
3．雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究	6．最初と最後の頁 181-205
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 外川昌彦	4．巻 53
2．論文標題 ダルマパーラのブッダガヤ復興運動と日本人―ヒンドゥー教僧院長のマハントと英領インド政府の宗教政策を背景とした	5．発行年 2016年
3．雑誌名 日本研究	6．最初と最後の頁 189-230
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 櫻井義秀	4．巻 121
2．論文標題 論説　宗教は人をどのくらい幸せにするのか？―日本人の幸福感と宗教	5．発行年 2017年
3．雑誌名 宗務時報	6．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 滝澤克彦	４．巻 3
２．論文標題 宗教の越境と文脈―宗教的ダイナミズムをめぐる存在論的・認識論的前提の批判的検討を通した超域的議論のための方法論的考察	５．発行年 2017年
３．雑誌名 多文化社会研究	６．最初と最後の頁 116-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計57件（うち招待講演　7件／うち国際学会　21件）

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 Encounter with Mahatma Gandhi: Fujii Gurji and India-Japan Relations in the 1930s
３．学会等名 日本学術振興会二国間交流事業（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 「英領期のブッダガヤにおける聖地復興運動と英領インド政府の宗教政策」
３．学会等名 第18回「宗教とツーリズム」研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 Saintly Cults and Syncretistic Tradition in Bengal
３．学会等名 American Association of South Asian Studies（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 Introduction, Workshop: Buddhism in shaping India-Japan Relations
３．学会等名 日本学術振興会二国間交流事業（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 「南アジアにおける宗教的対立と共存の文化的基盤―ベンガルの聖者廟におけるヒンドゥー教とイスラーム」
３．学会等名 東京外大AA研イスラーム中東セミナー
４．発表年 2017年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 Buddhist Revival Movements in Bengal by Dharmapala, Kripasharan Mahasthavir, and the Japanese
３．学会等名 8th Karmayogi Kripasaran Memorial Lecture Celebrating 125 year of a Golden Heritag（日本学術振興会二国間交流事業）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 The Buddhist Revival Movement by Aanagarika Dharmapala at Bodh-Gaya and the Japanese
３．学会等名 International Seminar on Role of Bengal in the Revival of Buddhism（日本学術振興会二国間交流事業）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 「ダルマパーラのブッダガヤ復興運動と英領インド政府」
３．学会等名 東京外大AA研研究会「南アジアのフロンティアを再考する」
４．発表年 2017年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 Governance and Society from the view of Grassroots Context: A Gram Panchayat Election in West Bengal in 1993
３．学会等名 International Conference on “Society and Governance: Comparative Studies on India and China”（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 塚田穂高
２．発表標題 津地鎮祭訴訟・再考―政教分離訴訟の構築・浸透過程の一事例として―
３．学会等名 「宗教と社会」学会第25回学術大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 塚田穂高
２．発表標題 戦後日本の新宗教運動における平和運動
３．学会等名 2017近代東亞宗教的變遷與發展國際學術研討會
４．発表年 2017年

１．発表者名 塚田穂高
２．発表標題 争われる「信仰」、介入する「公」―山口自衛官合祀拒否訴訟・再考―
３．学会等名 第90回日本社会学会大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 川田進
２．発表標題 「宗教と和諧」政策に見る中国の公共宗教論
３．学会等名 日本宗教学会第76回学術大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 YANO Hidetake
２．発表標題 Religious activities of administrative agencies and the relation between religion and the state in modern Thailand
３．学会等名 Annual Conference of the 11th conference of the Asian Political and International Studies Association （APISA 11）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 YANO Hidetake
２．発表標題 Religious Studies in Japan
３．学会等名 1st Seminar on Religious Studies in the College of Religious Studies Mahidol University（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Sanami Takahashi
２．発表標題 Social Activities of the Orthodox Churches after the Chernobyl Catastrophe
３．学会等名 ISSR/SISR 34th Conference “Religion, Cooperation and Conflict in Diverse Societies”（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 高橋沙奈美
２．発表標題 「マイダン革命とウクライナ諸教会の社会貢献活動」、パネル「政教関係の国際比較と新しい公共宗教論をめざして」（代表者：櫻井義秀）
３．学会等名 日本宗教学会第76回学術大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 滝澤克彦
２．発表標題 モンゴルにおける政教関係と越境する宗教的公共活動
３．学会等名 日本宗教学会第76回学術大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 藤野陽平
２．発表標題 「監獄の保存に見られる植民体験の重層性：台湾緑島の事例より」
３．学会等名 仙人の会4月例会
４．発表年 2017年

１．発表者名 藤野陽平
２．発表標題 重層する植民経験からみる戦争観光のノスタルジア　－台湾の緑島人権文化園区の事例より
３．学会等名 日本文化人類学会第51回研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 藤野陽平
２．発表標題 Recent Tendency of the Taiwanese Church in the Taiwan Independence Movement
３．学会等名 ISSR 34th Conference 2017 (International Society for the Sociology of Religion)（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 藤野陽平
２．発表標題 分断された国家イメージと博物館 －台湾の国家人権博物館籌備処と国軍歴史の事例から
３．学会等名 シンポジウム「多重アイデンティティ」、「国家」とミュージアム」（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 藤野陽平
２．発表標題 「愛される男たちと忘れられる女たち －親日台湾言説にみるポストコロニアルなまなざし」
３．学会等名 シンポジウム「帝国」・「ジェンダー」、「表象」
４．発表年 2017年

１．発表者名 藤野陽平
２．発表標題 「台湾のキリスト教徒による靖国参拝と独立運動」
３．学会等名 日本宗教学会第76回学術大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 藤野陽平
２．発表標題 Diversity of cultural identities in the museums of multi-ethnic Taiwan
３．学会等名 Multicultural History of Sakhalin Region: Comparative studies and museumification（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 加藤久子
２．発表標題 ポーランドのカトリック巡礼地が表象するdarkness
３．学会等名 研究会「社会主義文化における記憶と記念の比較研究」
４．発表年 2017年

１．発表者名 加藤久子
２．発表標題 負の文化遺産と＜パフォーマンス＞―ポーランドにおけるホロコーストの記憶をめぐって―
３．学会等名 日本社会学会第90回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 櫻井義秀
２．発表標題 現代アジアのキリスト教の趨勢に関する一考察－日本・韓国・中国・モンゴル・タイの調査から
３．学会等名 北海道社会学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yoshihide Sakurai
２．発表標題 How Can We Recognize Religio-Political Movements in Public Sphere? : Two Unique Religio-Political Movements and Their Social Impacts in Japan
３．学会等名 International Society for Sociology of Religion（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 櫻井義秀
２．発表標題 パネル「趣旨説明　政教関係の国際比較と新しい公共宗教論をめざして－各地域からの報告」,「報告　政教関係の国際比較と公共宗教論の視点」
３．学会等名 日本宗教学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 アジアの政教関係と公共宗教論
３．学会等名 櫻井義秀科研・2017年度研究会「アジアの政教関係と新しい公共 宗教論構築の地域比較研究」
４．発表年 2018年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 The Religiosity and Modernity of the Baul Tradition in Bengal:Changing Faces of Baul in the Era of Globalisation -2: Introduction to the Panel Symposium
３．学会等名 5th International Congress of Bengal Studies（国際ベンガル学会）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 Remembering Village after 50 Years: Reconsidering an Ethnography by the late Professor Tadahiko Hara: Introduction to the Panel Symposium
３．学会等名 5th International Congress of Bengal Studies（国際ベンガル学会）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 「バングラデシュの独立戦争とセキュラリズム憲法の成立―国民統合とポストコロニアルの二重拘束」
３．学会等名 東京外大AA研フォーラム
４．発表年 2018年

１．発表者名 YANO Hidetake
２．発表標題 Religion and Religious Studies in Japan and Thailand: A Comparison of Secular Society and Less Secular Society
３．学会等名 Center for Chinese Studies Faculty of Social Sciences and Humanities Mahidol University（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 滝澤克彦
２．発表標題 アジャ・リンポチェのグローバルな公共活動とその意味
３．学会等名 科学研究費「アジアの政教関係と新しい公共宗教論構築の地域比較研究」研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤野陽平
２．発表標題 台湾で暮らす日本人が持つ多義性ー新住民としての在台日本人研究試論
３．学会等名 シンポジウム北海道と台湾における多文化共生ー先住民、マイノリティ、移民（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 櫻井義秀
２．発表標題 創価学会の政治参加と日本政治の右傾化
３．学会等名 第2回東アジア宗教研究フォーラム
４．発表年 2018年

１．発表者名 櫻井義秀
２．発表標題 現代宗教研究の課題と展望－日本・東アジアから
３．学会等名 東アジア宗教研究フォーラム創立記念国際学術大会 基調講演（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yoshihide Sakurai
２．発表標題 Missionary Trans-border Religions and Defensive Civil Society in Cotemporary Japan
３．学会等名 International Workshop of Religious Diversity and Politico-Religious Relations in East Asia（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 櫻井義秀
２．発表標題 コメンテーター　開催校企画シンポジウム「越境を考える―その課題と可能性」コメンテーター　開催校企画シンポジウム「越境を考える―その課題と可能性」
３．学会等名 日中社会学会第28回大会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yoshihide Sakurai
２．発表標題 The dream of Japanese religio-political movement after World War Two: the response to social uncertainty and moral ambiguity
３．学会等名 2016 HU-SNU JOINT SYMPOSIUM Dream and Reality in East Asia: An Interdisciplinary and Critical Approach（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 矢野秀武
２．発表標題 タイ政教関係論の諸相とその展開
３．学会等名 日本宗教学会第75回学術大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 川田進
２．発表標題 中国共産党の宗教政策とグローバル展開
３．学会等名 国際研究フォーラム「東アジアのグローバル化と宗教文化」（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yohei Fujino
２．発表標題 The Taiwanese Church and the Taiwan Independence Movement: Recent Tendency and the Context of After WW2 in Taiwan
３．学会等名 SISR preparation workshop 東アジアのグローバル化と宗教文化 ”Globalizations and Religious Cultures in East Asia”（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 藤野陽平
２．発表標題 台湾の政権交代への動きと台湾語教会―ひまわり運動から総統選挙を中心に
３．学会等名 東アジア人類学研究会第3回研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 藤野陽平
２．発表標題 台湾における日本人妻とキリスト教
３．学会等名 ワークショップ「帝国の解体と女性―断絶／連続する脱植民地の生活世界」
４．発表年 2016年

１．発表者名 藤野陽平
２．発表標題 公と私との間でのフィールドワーク―岩手県宮古市教育委員会との震災記録保存の協同から
３．学会等名 シンポジウム「東アジアにおけるフィールドワークの実践と課題」
４．発表年 2016年

１．発表者名 藤野陽平
２．発表標題 ポスト・コロニアル台湾で親日を選択する―台湾の独立派キリスト教を例として
３．学会等名 国際ワークショップ「戦争の記憶」（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 滝澤克彦
２．発表標題 モンゴルの福音派キリスト教における在韓モンゴル人教会の意味
３．学会等名 「宗教と社会」学会第24回学術大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 バングラデシュにおける災害支援と地域開発の最前線・趣旨説明
３．学会等名 「バングラデシュにおける災害支援と地域開発の最前線」シンポジウム
４．発表年 2016年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 宗教が紛争を生み出すとき―バングラデシュのテロ事件から考える
３．学会等名 第11回4大学連合文化講演会
４．発表年 2016年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 ダッカのテロ事件とバングラデシュの若者たち―その背景とこれからを考える― ワークショップの趣旨説明
３．学会等名 「ダッカのテロ事件とバングラデシュの若者たち」ワークショップ
４．発表年 2016年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 ダッカの若者たちとテロ事件―その歴史的背景を振り返る―
３．学会等名 「ダッカのテロ事件とバングラデシュの若者たち」ワークショップ
４．発表年 2016年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 ヴィヴェーカーナンダの宗教観の変遷―仏教とヒンドゥー教
３．学会等名 日本宗教学会第75回学術大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 外川昌彦
２．発表標題 ダルマパーラのブッダガヤ復興運動とシンハラ人ナショナリズム―英領インド政府とヒンドゥー教僧院長マハントの対応を背景として
３．学会等名 「宗教と社会」学会第24回学術大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Sanami Takahashi
２．発表標題 Hidden Attachment to the Time Gone By: Image of the Last Tsar between the West and East
３．学会等名 For the 50th Anniversary of the 50th Anniversary of the October Revolution…: Social and Political Foundations of the Major Ideological Campaigns of the 1965-1970s（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計16件

１．著者名 外川昌彦	４．発行年 2017年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 434(103-108)
３．書名 バングラデシュを知るための60章(大橋正明他編、「バウルの導師・フォキル・ラロン・シャハをめぐる謎」を分担執筆)	

１．著者名 藤野陽平	４．発行年 2017年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 252(118-131)
３．書名 多文化時代の観光学－フィールドワークからのアプローチ（高山陽子編、「災害復興ツーリズム－旅が生み出すつながり」を分担執筆）	

１．著者名 藤野陽平、稲澤努、横田浩一、小林宏至、兼城糸絵、川瀬由高、河合洋尚	４．発行年 2017年
２．出版社 風響社	５．総ページ数 552(209-223)
３．書名 フィールドワーク　－中国という現場、人類学という実践（西澤治彦、河合洋尚編、「座談会　現代中国におけるフィールドワークの実践」を分担執筆）	

１．著者名 櫻井義秀	４．発行年 2017年
２．出版社 北海道大学出版会	５．総ページ数 462
３．書名 現代中国の宗教変動　アジアのキリスト教（編集）	

１．著者名 Yoshihide Sakurai	４．発行年 2017年
２．出版社 Khon Kaen University Press	５．総ページ数 316(112-127)
３．書名 ‘Engaged Buddhism in Thailand: Has the Time of Development Monks finished?’, Noriyuki Suzuki and Somsak Srisontisuk (eds.), In Civil Society Movement and Development in Thailand and Lao PDR.: Public Sphere, Social Capital and Prachakhom	

１．著者名 外川昌彦	４．発行年 2018年
２．出版社 東京外国語大学AA研・基幹研究人類学班	５．総ページ数 103
３．書名 ダッカのテロ事件とバングラデシュの若者たちーその背景とこれからを考える	

１．著者名 外川昌彦	４．発行年 2018年
２．出版社 丸善出版社	５．総ページ数 806(228-229)
３．書名 インド文化事典　（国立民族学博物館編、「ガーンディーの思想」を分担執筆）	

１．著者名 櫻井義秀・川又俊則編	４．発行年 2016年
２．出版社 法藏館	５．総ページ数 428
３．書名 人口減少社会と寺院―ソーシャルキャピタルの視座から	

１．著者名 藤野陽平	４．発行年 2016年
２．出版社 慶應義塾大学出版会	５．総ページ数 320(183-209)
３．書名 『帝国日本の記憶―台湾・旧南洋群島における外来政権の重層化と脱植民地化』（三尾裕子・遠藤央・植野弘子編，「台湾における「日本語」によるキリスト教的高齢者ケア―社団法人台北市松年福祉会玉蘭荘の機関誌分析より」　を分担執筆）	

１．著者名 櫻井義秀編著	４．発行年 2017年
２．出版社 北海道大学出版会	５．総ページ数 306
３．書名 人口減少時代の宗教文化論―宗教は人を幸せにするか	

１．著者名 櫻井義秀編著	４．発行年 2017年
２．出版社 北海道大学出版会	５．総ページ数 480
３．書名 現代中国の宗教変動とアジアのキリスト教	

１．著者名 矢野秀武	４．発行年 2017年
２．出版社 北海道大学出版会	５．総ページ数 418
３．書名 国家と上座仏教―タイの政教関係	

１．著者名 藤野陽平	４．発行年 2017年
２．出版社 三元社	５．総ページ数 332(246-268)
３．書名 『想起と忘却のかたち―記憶のメディア文化研究』（浜井祐三子編，「日本人妻と日本語族を日本語でつなぐ―台北のキリスト教系デイケアセンター玉蘭荘の事例から」を分担執筆）	

１．著者名 藤野陽平	４．発行年 2017年
２．出版社 北海道大学出版会	５．総ページ数 480(171-198)
３．書名 『現代中国の宗教変動とアジアのキリスト教』 （櫻井義秀編著，「台湾の政教関係にとっての台湾語教会という存在―長老教会と台湾独立派の友好関係」 を分担執筆）	

１．著者名 藤野陽平	４．発行年 2017年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 252(118-131)
３．書名 『多文化時代の観光学―フィールドワークからのアプローチ』（高山陽子編，「災害復興ツーリズム―旅が生み出すつながり」　を分担執筆）	

１．著者名 外川昌彦編	４．発行年 2017年
２．出版社 東京外国語大学AA研・基幹研究人類学班	５．総ページ数 108
３．書名 バングラデシュにおける災害支援と地域開発の最前線	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	川田　進 (Susumu Kawata) (10288756)	大阪工業大学・工学部・教授 (34406)	
研究分担者	矢野　秀武 (Hidetake Yano) (20422347)	駒澤大学・総合教育研究部・教授 (32617)	
研究分担者	塚田　穂高 (Hodaka Tsukada) (40585395)	上智大学・総合人間科学部・研究員 (32621)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	藤野　陽平 (Yohei Hujino) (50513264)	北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・准教授 (10101)	
研究分担者	高橋　沙奈美 (Sanami Takahashi) (50724465)	北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・助教 (10101)	
研究分担者	外川　昌彦 (Masahiko Togawa) (70325207)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授 (12603)	
研究分担者	滝澤　克彦 (Katsuhiko Takizawa) (80516691)	長崎大学・多文化社会学部・准教授 (17301)	